

気力のハンスト

患者 体調しだいに悪化

チッソ本社

東京・丸の内チッソ本社社長室前で十日午後からハンストにはいった水俣病新認定患者・家族の川本輝夫さん(右)ら代表五人は、チッソの「具体的な誠意」を求めて、十一日もハンストを続けた。訴訟派患者の浜元 福さん、作家の石牟礼道子さんもハンストに加わっている。ただ患者・家族の森清さん(左)は出水市へは家族の事情で十二日夕離京することになり、体力回復のため十一日の午後五時でハンストを中止した。

こうした患者側のハンストに対して、チッソ側は何ら具体的な態度を示さず、川本さんが「八日、入江事務に渡した血書を書務から直接返してほしい」と要求したところについて、土谷総務部長は十一日午後「血書は正式にいただいたものだから返す意思はない」との事務の返答を伝えた。

また患者側付き添いの医師団が申し入れていた「馬田社長の患者側医師団による診察」もその必要はない、と拒否した。医師団はそれの言い、ハンスト中の患者・家族を興奮させないため社長室に通ずる廊下のシャッターアウツを申し入れたが、同部長は「会社では交渉は中断している」と認識している。あらためて引き揚げを要求する」と答えた。医師団は患者・家族の健康状態について同日午後四時次のように説明した。

患者は会社側から回答があるまでがんばるといっている。しかし生死の境までいくわけにはいかなないので、この数日内にはドクターストップをかけねばならないだろう。からだの調子はしだいに悪化しており、気力でもっている状態だ。

(東京支社)

チッソ正門のハンスト解く

チッソ東京本社での新認定患者とチッソとの補償交渉で、患者側を支援してチッソ水俣工場正門前でハンストを続けていた水俣病を告発する会員が十一日午後四時五十三分ハンストを解いた。

八日から五人が毛布にくるまわって続いていたが、十一日は雨も激しく、テントを張って近くにすり込みを続けている新認定患者家族の要請でストを解いた。



患者中のハンスト続行中